

[プロジェクト名]	[分野]
茨大・みと 再発見—地域国際ふれあいナビ from 茨大プロジェクト	地域交流 国際交流
[代表者]	黄門まつり等
人文学部・社会科学科 1年 藤山 彩香	
[参加者]	
佐藤 麻里絵（人文学部・コミュニケーション学科・3年） 水野 早織（人文学部・コミュニケーション学科・3年） 千葉 瞳（人文学部・コミュニケーション学科・3年） 森下 朋子（人文学部・コミュニケーション学科・3年） 菊池 麻衣子（人文学部・コミュニケーション学科・4年） 横田 美濃（人文学部・コミュニケーション学科・4年） 藤山 彩香（人文学部・社会科学科・1年）	
[連携先]	
稲野辺正男さん（元茨城大学非常勤講師）、ほか茨城大学近辺在住の水戸市民の方々	
[プロジェクトの実施計画概要]	
<p>このプロジェクトは、平成 17・18 年度と 2 年度にわたり採択していただいた「茨大・みと 再発見—地域国際ふれあいナビ from 茨大プロジェクト」の秋冬版・春夏版を通年のものとして改定し発展させるものです。</p> <p>このプロジェクトの目的は、2 つあります。第一に、これまでに作成してきた 2 冊の冊子を改訂し、1 冊にまとめあげることで、より地域に根付いた冊子を作ることです。第二の目的は、その冊子を利用し、地域との交流を図り、そして国際交流に生かしていくことです。</p> <p>私たちはこれまでに、秋冬版では、茨苑祭レポート・地域の行事についての調査と参加体験・茨大近辺のおすすめスポット紹介などを、春夏版では、水戸の祭りについての調査やレポート・借楽園の梅レポートや桜の名所レポートなどを行い、そしてそれぞれ茨大の留学生との協力による多言語による情報誌を作成しました。私たちは今年度、目的達成のために以下のような計画をしています。第一に、ただ単に秋冬版・春夏版の合作にとどまらず、メインとなる紹介箇所の翻訳言語の種類を増やしたり、外国人にわかりにくい日本文化の言葉や文化観の説明をいれたり、読み手の立場になった冊子へとリニューアルさせていこうと考えています。第二に、水戸黄門まつりの花火大会や借楽園のお月見のお茶会等に新たに参加し、レポートを加えていくつもりです。他にも、身近なスポットに焦点をあて、普段見過ごしてしまいがちである伝統や歴史の良さを再発見できるようなページ作成も行うつもりです。また、以前インタビューさせていただいた方のもとに、出来上がった冊子を持って行き意見や感想を聞く等の地域交流の場をもつことで、より充実した内容にしていく予定です。第三に、出来上がった冊子を、茨城県国際交流協会、水戸国際交流センター、まちかど交流室、水戸市内の日本語協力関連のボランティア団体、県立図書館、市立図書館などへ持参し、活用していただくことで自発的な地域交流を行っていくつもりです。</p> <p>また今年度は、私たちの活動成果等の情報を積極的に発信することに力を入れるつもりです。具体的には現在、NHK へのテレビ出演を決定しています。その目的は、私達の活動を、市民の方や茨城大学の学生に知っていただくことで、このプロジェクトのテーマである「茨大・みと再発見」をするきっかけになればと願っています。</p>	
[プロジェクトの成果報告]	
<p>私たちは、「茨城大学の留学生と地域の外国人の方々とともに、地域の行事などに参加し取材することで、水戸の暮らしを再発見すること。多言語での翻訳をし茨大発の情報誌としてまとめ、地域交流・国際交流にいかしていくこと。」という目標を掲げ、以下のような活動を行ってきました。</p> <p>まず、茨城大学の留学生と一緒に地域の行事（節分祭・桜祭り、地域の漬物屋さん主催の梅干しづくり教室、水戸黄門祭り）に参加しました。</p>	

次に、地域の漬物店を訪れ取材・撮影をし、地域の方々に去年できた冊子を配る過程で、意見交流をかねた地域交流をしました。

また、今年度は『私たちの活動や茨城大学について、市民の方・茨城大学の学生にしてもらうことで、このプロジェクトのテーマである「茨大・みとの再発見」をするきっかけにしてほしい』という思いから、活動成果などの情報を積極的に発信してきました。具体的には、留学生とのNHK水戸放送局「わいわい茨城」へのテレビ出演です。その際に今までの活動で取材・撮影したものを映像として編集し、取材テープを作成しました。内容は、1. 水戸黄門まつりのパレード・花火大会の様子、留学生へのインタビュー 2. 梅干し作りの様子と社長のインタビューです。また、行事への参加や地域交流を通じて活動の発信ができたと感じています。以上の活動踏まえ、冊子合作に向け新たなページを作成したり（茨城大学周辺の歴史探訪ページ作成・梅干し作りのページ等）、意見交流をもとに改定したり、と冊子編集を行っています。

今年度は3年目ということもあり「意見交流・情報発信」を中心におこなってきました。それに伴い、まだ冊子自体の完成までにいたっていないので、今年度中に完成できるよう頑張っている次第です。冊子完成後は、取材した方々や茨城県国際交流協会などへ持参し活用していただくことで、自発的に地域交流を行い、地域・国際交流について考えていこうと思っています。

このように私たちのプロジェクトはまだ進化をしている段階です。だからこそ、これからの地域交流により一層力をいれていきたいと思っています。